

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して

~TANKYU~

谷地南部小学校
校内研究だより
2022. 6. 29
No.10 文責 菅野

第2学年 算数 3けたの数

2年 授業研究会 成果と課題

視点1「身近な具体物を活動に取り入れる」

- 具体物が数種類あることで、他の班の様子が気になりやすく、10のまとまりを作って数えることに気づきやすい。
- クリップは、10のまとまりを作りやすい。
- △おはじきは10のまとまりを作る考えに結び付きにくかったのでは…。
- △数える活動が難しく、10のまとまりを作って数える経験が必要。
- △「パッと見て数がわかるように」と伝えて活動を始めればよかった。

視点2「友だちとの関わりの場の設定」

- 4人いることで分担できて、より良い数え方のアイデアが出やすかった。
→何度も協力して数え直していた。
- 一人ではできなくても、友だちと協力して取り組んでいた。
→友達同士で間違いに気づき、試行錯誤できていた。
- 10ずつ作る良さを他の班に伝える子もいた。



その他「単元の見通し」

- 子どもとの対話を通して、既習を振り返りながら本単元に向けて準備ができた。
- 「なんで早く終わったの?」「なんで終わらなかったの?」という問い返しが10のまとまりを作る良さにつながっていた。
- △本時の流れも示して子どもと共有できればよかった。

【教頭先生からのご指導から】

- 数えているときに190から300にとんでいる子どもがいた。10とびの数え方を数直線で確認していく必要がある。
- 単元の流れを確認していた中で、子ども達は数を数える活動に興味関心が高まっていた。確認している後半に飽きている子どもも見られたので、様子を見ながら活動に進むか、単元の流れを確認するかについて見極めることが必要になってくる。